

<< RSR (Re-Style Report) >>

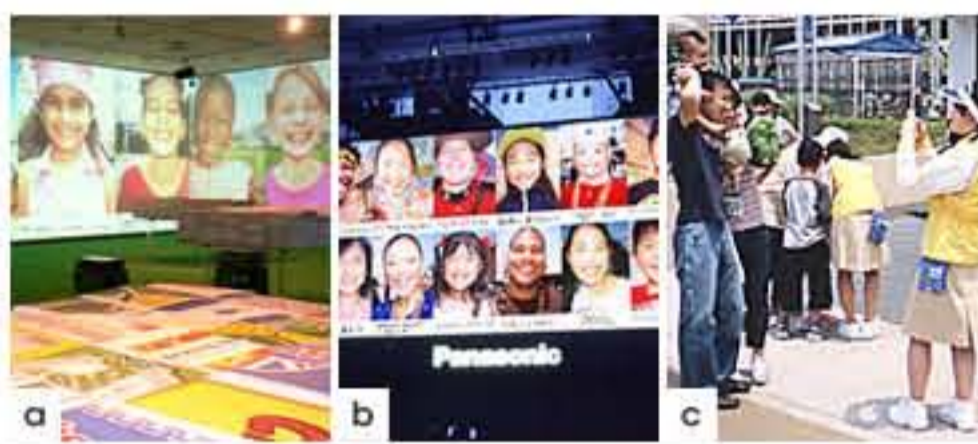
Act. 39



大好きな人、大好きなこと、大好きなもの……しあわせなことを考えると、人は自然と笑顔になります。そして笑顔は、見る人もしあわせにします。2005年12月、そんな笑顔たちを集めた写真集『Merry EXPO -BOOK of global exchange-』が、ちょっとおもしろい仕掛けをたずさえて発売されました。笑顔の写真集って？ おもしろい仕掛けって？ 『Merry EXPO -BOOK of global exchange-』が伝える想いをレポートします。

:: 世界中のMerryが名古屋に大集合！

名古屋中心部のシンボルとして地元の人たちにも親しまれているテレビ塔。その目の前にある新風舎/名古屋mountain-route2Fシアターで、去る3月7日から14日までの7日間、写真集『Merry EXPO -BOOK of global exchange-』の発売を記念した写真展が開かれました。会場では、世界中の子どもたちの笑顔をどーんとパネルにして展示。パネルの中の笑顔はどれも、「ここからしあわせ！」と言わんばかりの満面の笑みで、見ているこっちまでつられてしあわせな気分になってしまいます。



a: 新風舎/名古屋mountain-route2Fシアターでの写真展と同時期に開催された、ミキモト名古屋店での展示。

b: 愛・地球博でおめみえした840インチサイズの大型ビジョンにも、たくさんの笑顔をのせて。

c: 万博来場者の笑顔もバシャリ！

ところで、この笑顔とこの感じ、どこかで見た覚えはありませんか？ 昨年開催された愛・地球博に足を運んだ人なら「見た！」という人も多いはず。実は、万博会場内、愛・地球博の大型ビジョンに映されていたのと同じ、あの、世界中の子どもたちの笑顔なんです。

主催のMerry Projectは、これまで、「あなたにとってMerry（しあわせ）とは何ですか？」を合い言葉に世界中の人たちの笑顔とメッセージを集め、それをパネルにして写真展を開いたり、フリーペーパーにして配布したり、今回のような写真集を制作したりと、いろいろな形で発信し続けてきました。

愛・地球博では、いままで撮りためてきた世界23カ国20,000人の笑顔と一緒に、万博に来場した子どもたちや家族の笑顔も写真におさめて、その場で大型ビジョンに映し出しました。とってもインパクトのある演出はきっと、より多くの人によりたくさんのしあわせを届けることができたと違いありません。

その万博をただのお祭りで終わらせることなく次の世代に伝えたいと、たくさんの中から選んだ約300人の笑顔と1,000人以上のメッセージを写真集にしたものが、今回の『Merry EXPO -BOOK of global exchange-』なのです。

:: 新時代をハッピーにするのは、やっぱり笑顔。



d: アートディレクターの水谷さん。一つひとつの出会いを大切にしながら、世界中の笑顔を撮影している。

e: 『Merry EXPO -BOOK of global exchange-』の中はぎっしりの笑顔。

『Merry EXPO -BOOK of global exchange-』を開くとまず目に飛び込むのが、子どもたちのとびっきりの笑顔。そして、笑顔のかたわらには、ちょっと頼りない筆跡のメッセージが。字の書ける子も、まだ書けない子も、Merryなメッセージを一所懸命書いています。表現の仕方もいろいろで、小さなスペースにいっぱい文字を書く子もいれば、「a Smile！」とたった一言だけ書く子、かわいらしいイラストを描く子もいたり、ほほえましいかぎり。こうやって言葉や絵で表すといろんな形になる「Merry」だけど、一番シンプルに表現しているのは

やっぱり笑顔。笑顔は、世界共通のコミュニケーション方法なのかもしれません。

そんな笑顔の写真を撮り続けているのは、アートディレクターでもある、Merry Projectの水谷孝次さん。1999年、個性的でポジティブな原宿の女の子たちの笑顔をポスターにして、ラフォーレ原宿全館に貼りめぐらせたことがきっかけで、話題を呼びました。世界中のアーティストたちからも引き合いが殺到し、N.Y.、ロンドン、ミラノなどの流行に敏感な街でも相次いで展示。その後も、同時多発テロ1年後のN.Y.を行き交う人々の笑顔や、阪神淡路大震災後の復興に頑張る人たちの笑顔などを撮って、被写体の人たちはもちろん、その笑顔を見る人たちにも希望としあわせを与え続けてきました。

そんな活動の中心にあるのは、「事件や事故など暗い出来事にことかかないいまの時代、みんなをハッピーにできるのは笑顔しかない！ 笑顔を通して世界中にしあわせの輪を広げていきたい！」という想い。Merryな笑顔はいま、そんな水谷さんの想いをのせて世界中に広がっています。

:: 廃品リユースで、もっとMerryに。

冒頭でも触れたように、今回発売の『Merry EXPO -BOOK of global exchange-』にはちょっとおもしろい仕掛けもされています。それはなんと、本の表紙と裏表紙に廃品段ボールをそのまま使うというもの。愛・地球博の海外パビリオンが捨てようとしていた段ボールをスタッフが地道に集め、これまた、カッターナイフで本の大きさに合わせて手作業でカット。「Merry EXPO」のロゴが入った背表紙のシールをベタッと貼って、一冊一冊手製本で仕上げられています。当然、ひとつとして同じ表紙の本は存在しません。笑顔と同じく個性的な、世界でたった1冊だけの本です。そしてそのほかにも、売り上げの一部が南アフリカの学校建設に寄付されるというナイスな仕掛けも『Merry EXPO -BOOK of global exchange-』には隠されていて、まさに、資源を大切にしようという愛・地球博の精神をそのままにしたような本なのです。



f: 取扱店に並ぶ『Merry EXPO -BOOK of global exchange-』。

g: とても廃品段ボールとは思えない表紙は、世界にふたつとない個性をつくり出す。

見てもらうとわかるけど、『Merry EXPO -BOOK of global exchange-』の表紙はとってもカラフル。とかく廃品・リユースというとやぼったいイメージがあるけれど、さすがはアートにたけた水谷さん、むしろ斬新でカッコイイ！ 「こんなリユースの方法もあるんだ！」と、手に取る人のエコゴコロも喚起してくれそうな本に仕上がっています。段ボールをごみにしないですんだ人、ごみになる運命の段ボールを救った人、そして、それを買うことでごみを減らし、貧困地域の子どもの助けになれた人、それぞれができることをできる形にした結果、とっても気持ちのいいことができました。いずれにしても、放っておいたら捨てられてしまう世界中の段ボールが、たくさんの笑顔を包んで、また世界中のみんなのところに戻っていくなんて、ステキですよ。

斬新なアイデアとステキな仕掛けが詰まった『Merry EXPO -BOOK of global exchange-』は、いろんな意味でみんなをしあわせにしてくれるパワーに満ちていました。

『Merry EXPO -BOOK of global exchange-』

発売日・2005年12月15日第1刷／著者・水谷孝次／発行・Merry Project
発売・新風舎刊（B6判、180ページ）／価格・1,575円

お求めは、[取扱書店](#)もしくは[新風舎ホームページ](#)から。

文・中島まゆみ 画像提供・Merry Project

[トップページに戻る](#) [このページの先頭に戻る](#)

[\[Home\]](#) [\[Back number\]](#) [\[Contact Us\]](#) [\[Search\]](#)